

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「運」「鈍」「根」！・・・ネイマールの実験とは・・・～

江崎グリコの創業者、江崎利一は、もともと佐賀の勉強熱心な薬屋でした。

ある日、有明海に行くと漁師たちが牡蠣を煮ている鍋から煮汁が溢れでている、利一は煮汁をもらい、九州帝国大学で調べてもらうと、江崎の予想通り煮汁には**グリコーゲン**がたくさん含まれていました。これで何か食べ物を作れないかという発想から**グリコ**を創業したそうです。



江崎が漁師に出会ったのは運ですよ。だけど、江崎は薬学雑誌で牡蠣には多量のグリコーゲンが含まれていたこと。そして、人間に不可欠な栄養素であることを勉強していたんですね。この事前の知識がなかったらこの運は掴めなかった。薬屋として地道に勉強を続けていたことが運を呼び寄せたんですね。

日本人は創造性が足りないとか言われますが、創造性は無からは生まれません。知識・準備があるからこそアイデアが生まれるんです。

ネイマールの実験というのがあります、ブラジルの有名なサッカー選手ネイマールは他の選手とどこが違うのかを調べるために、大阪大学の研究室が彼を呼び、試合中の映像を見せながら脳波の動きなどを調べました。その結果、彼が他のプロ選手とどこが違うかが分かった。一つは、彼がプレーのパターンを他の選手よりたくさん覚えていることでした。二つ目は、各プレーシーンで覚えているパターンのうちどれを使えば最も適切かを判断する能力でした。三つめは、判断のスピードでした。

つまり、最初は学習、練習なんですわ。それによってはじめて独創的なプレー、即ち二つ目、三つ目が可能になる。これはスポーツに限らず、事業や学問で成功する上で大切なことだと思います。

私は今の若い人は我々が考えている以上に優れていると思っています。武器も持っています。ITに着目し、この武器を使って何ができているか真剣に模索しています。それは確かに素晴らしいのですが、ただ一点注意してもらいたいのが、それを楽にやろうと考えていないかということです。

人間は直接会わないと、その人のことは分からないし、相手も信用しようとは思いません。「運」を掴もうと思ったら、多くの優れた人に直接会うことが欠かせないということを肝に銘じるべきです。もちろん「運だ」だけでは成功しません。

仕事に真剣に打ち込む「鈍」「根」は必須です。コツコツとした地道な努力の「鈍」、壁にぶつかっても乗り越えようとする根性の「根」も必要になります。「運・鈍・根」はやはり三つでセットなんです。

私の大学のビジネススクールで経営のテクニック・手法を教えるのを主としてきましたが・・・これからの時代、それだけでは通用しないのかもしれませんが。

致知12月号特集「運・鈍・根」大阪大学、宮本又郎名誉教授と作家、北 康利さんの対談より

宮本教授は、大阪にある大阪企業家ミュージアムの館長をされています。

明治の創業者たちの「運」・「鈍」・「根」の生き方に触れるために訪れてみてはいかがでしょうか。